

セロシア アラボーナレッド/ファーストフレーム・シリーズ

学名: *Celosia plumosa*

種子粒数の目安:

Raw 1,000 から 1,500 粒/グラム

Filmcoat 1,500 から 2,200 粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.8 から 6.2、また培地の初期養分は中庸(EC: 0.7-1.2 mmhos/cm)とする

播種

288 穴、またはそれよりも小さなセル容積のトレイに 1 粒播きをする。パーミキュライト等で軽く覆土する。培地の感染症防止のため殺菌剤処理を行う

ステージ 1 - 発芽には 2 から 4 日を要する

地温: 21 から 22°C

光条件: 発芽時に光は必要

水分: ステージ 1 での水分レベルは適度に湿潤(level 4)の状態を維持する

湿度: 子葉が展開するまでは相対湿度を 95 から 98% で維持する

ステージ 2

地温: 20 から 22°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: ステージ 1 同様、適度な湿潤(level 4)を維持する。培地を乾かさないように注意する

肥料: レート 1(100ppm(N)以下、EC を 0.7mS/cm 以下)の濃度で肥料(液肥)を与える

ステージ 3

地温: 20 から 22°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 適度な湿潤(level 4)と標準(level 3)の間で管理を続ける。ステージ 2 同様、培地を乾かさないようにする。乾燥によるストレスは、株ができないうちに花芽がついてしまうので注意が必要

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100-175ppm (N)、EC 値 0.7-1.2mS/cm(1:2))に上げる

PGR(矮化剤): 不要である

ステージ 4

地温: 20 から 22°C

光条件: 53,800 ルクス(5,000 f.c.)を上限とする

水分: ステージ 3 と同様で、プラグトレイ内で水分が偏らないよう注意する

肥料: ステージ 3 と同様

プラグステージにおける注意点

株ができないうちに花芽が来ないようにするには、短日開花の逆特性により、14 時間以上の長日条件下に置くこともひとつの方法である。また、既述のように培地を乾燥させないことが重要

セロシアは直根系の植物なので、根はとてもデリケートです。苗の移植は時期を逃さず、根詰まりしないよう十分に注意する

鉢上げから出荷まで

培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.8 から 6.2、EC を 0.75mmhos/cm、また初期の養分バランスの良い配分とする

温度

昼間温度: 18 から 21°C

夜間温度: 15 から 16°C

照度(光条件)

できるだけ高い照度レベルを維持する

日長時間との関係

アラボーナ、ファーストフレーム・シリーズとも、(量的)短日開花品種なので、13 時間よりも短い短日条件多少早く開花する

かん水

株ができないうちに花芽がつかないよう、培地は常時乾かさないように注意する

肥料

アラボーナ、ファーストフレーム・シリーズとも、適度な肥料管理が求められる品種である。、レート 3(概ね 175ppm(N)、EC は 1.2-1.5m S/cm)の肥料を多すぎない程度に与える。セロシアは高塩条件に敏感なので、適正な pH を維持するよう注意する

矮化剤(PGR)

アラポーナ、ファーストフレーム・シリーズとも、概して矮化剤を必要としない品種である。しかし必要な場合は、季節や環境要因を考慮しながらB ナインを2,000 から3,000ppmで散布する。必要に応じて反復処理を行う

ピンチ

ピンチは不要である

平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ): 3 から4 週

移植から開花までの期間(週数):

コンテナサイズ	移植本数/ポット	移植から開花まで	播種から開花まで
カットバック等 9cm ポット	1 本	8 から10 週	11 から14 週
10 から13cm ポット	1 本	9 から12 週	12 から16 週

生産条件: アラポーナ、ファーストフレーム・シリーズとも、適切な気候条件の下であれば、周年生産が可能である

病例等

害虫: スリップス、アブラムシ、ハダニ、ハモグリなどに注意

病気: ウドンコ病やボトリティスに注意

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。